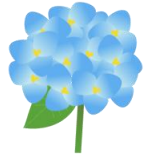


今月のグレース
Monthly Grace

プールと感染症



夏のような暑さの日も多くなり、学校ではプールが始まる季節となりました。最近、『プール入って良いですか?』という質問を多く受けます。今月号の皮膚科学会の本に皮膚科学会による皮膚の学校感染症とプールに関する見解が掲載されていました。今回は、プールと感染症について、皮膚科学会の見解を抜粋しました。

病名	プール入って 良いか?	どうして駄目なのか? どうして良いのか?	詳しい内容
とびひ 伝染性膿痂疹	禁止	原因の菌が感染力強く、かいた所の滲出液、水疱の中身が触れるとうつります。触れることでうつるので禁止です。	とびひは黄色ブドウ球菌という菌が皮膚表面にいます。プールの水自体ではうつらないものの、患部に触れたり、タオルや道具などを介してうつります。
水いぼ 伝染性軟属腫	良い	タオル、浮き輪、ビート板を介してうつる可能性があるため、これらの共用は避ける。	皮膚と皮膚が直接接触したり道具を介してうつります。しかし、通常のプールでの活動で皮膚が直接患部に触れることでの感染の可能性は低いと考えられています。
あたまじらみ	良い	治療を始めればプールに入っても良い。ただし、タオル、ヘアブラシ、水泳帽の貸し借りは禁止。	アタマジラミは髪の毛をしっかりとつかんでいるので水の中でも離れない。
かいせん 疥癬	通常型は良い	肌と肌の接触でうつるものの、プールの水ではうつらない。	通常型は皮膚から這い出る可能性は非常に低い。ただし、角化型は感染力が強いため外出も控える必要がある。

参考文献：山本剛伸ほか：学校感染症。第3種 そのほかの感染症：皮膚の学校感染症とプールに関する統一見解に関する解説。日皮 125：1203-1204, 2015